

令和5年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	関係法規Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	①医療法(概念・病院等施設)について理解する。 ②医療の安全確保について理解する。 ③健康保険法・国民健康保険法・高齢者の医療に関する法律などを理解し柔道整復師の業務に関する関わりについて理解する。			評価方法			
授業概要	プリント冊子及び問題集を中心に柔道整復師の業務に係る法律を中心に学習する。			期末試験 100% 小テストにて加減 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	関係法規	使用器材	プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	医療法 (1) 総則 医療提供の理念 インフォームドコンセント						
第2週	病院・診療所の定義						
第3週	医療に関する選択の支援等 情報の提供 広告						
第4週	医療の安全の確保 国の責務 医療安全支援センター 病院等の開設 病床の別 管理						
第5週	助産所の嘱託医師 清潔保持等 病院の法定人員及び施設の基準等 地域医療支援病院の法定施設等 第3節 監督 医療提供体制の確保 医療計画						
第6週	社会福祉法、生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法 知的障害者福祉法、老人福祉法、障害者自立支援法						
第7週	健康保険法・国民健康保険法、旧老人保健法、介護保険法						
第8週	個人情報保護に関する法律						
第9週	柔道整復師法 復習						
第10週	柔道整復師施行規則、省令						
第11週	日本国憲法						
第12週	復習プリント(柔道整復師法)						
第13週	復習プリント(関係法規)						
第14週	復習プリント(総合)						
第15週	復習プリント(総合)						
授業外 学習指示等	プリントを中心に復習する。						

令和5年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	柔道整復学Ⅶ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	谷口 禎二	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	各損傷における発生機序・症状・合併症・治療法・後遺症などがいえる。			評価方法			
授業概要	「下肢の損傷」の冊子に添い練習問題を交えて確認する。			期末試験 100% 小テストにて加減 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	下肢の損傷の実力小テスト						
第2週	骨盤の骨折 大腿骨頸部骨折・p351～366						
第3週	股関節脱臼 股関節軟部組織損傷 p367～376						
第4週	大腿部の損傷 大腿骨骨折・軟部組織損傷p377～378						
第5週	膝関節部の損傷 大腿骨遠位部骨折・p378～392						
第6週	下腿骨近位部骨折・膝関節脱臼・膝蓋骨骨折・膝蓋骨脱臼p392～401						
第7週	膝関節部の軟部組織損傷p401～410						
第8週	下腿部の損傷 下腿骨幹部骨折・p411～420						
第9週	下腿部軟部組織損傷 足関節部の骨折p420～431						
第10週	足根部の骨折・軟部組織損傷p432～441						
第11週	足・足趾の損傷 骨折・脱臼・軟部組織損傷p442～456						
第12週	骨折総論・脱臼総論・軟部組織損傷総論の復習						
第13週	上肢の損傷の復習						
第14週	下肢の損傷の復習						
第15週	骨盤骨折～足趾部損傷まとめ・練習問題						
授業外 学習指示等	教科書の熟読						

## 授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	柔道整復学総合Ⅲ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	小川 勝	授業方法	座学	単位数	2
到達目標	①臨床実地問題におけるキーワードから、疾患を適切に判断することができる。 ②図および写真から、疾患を適切に判断することができる。			評価方法			
授業概要	柔道整復(①総論、②骨折、③脱臼、④軟部組織損傷)に関する理解を総合的に行うために、これまで学習した内容に関する種々の問題を解くを通して、専門職としての基礎知識を整理し、理解を深化させることを目的とします。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	「柔道整復学 理論編」(南江堂) 「柔道整復学 実技編」(南江堂)	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理①						
第2週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理②						
第3週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理③						
第4週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理④						
第5週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑤						
第6週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑥						
第7週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑦						
第8週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑧						
第9週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑨						
第10週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑩						
第11週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑪						
第12週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑫						
第13週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑬						
第14週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑭						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日に振り返ること						

令和5年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	競技者の外傷予防技術	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整骨院で15年、病院整形外科勤務4年	担当者	小川 勝	授業方法	実技	単位数	1
到達目標	競技者、高齢者特有の外傷に対し、治療・施術を行うだけでなく、予防対策ができるようになること。			評価方法			
授業概要	競技者、高齢者特有の外傷に対し、術者、患者モデルを設定し予防対策のロールプレイングを行う。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	競技者の外傷予防(医歯薬出版)	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	運動生理学の概要① P1～						
第2週	運動生理学の概要②						
第3週	運動生理学の概要③						
第4週	競技者の外傷予防① P27～						
第5週	競技者の外傷予防②						
第6週	競技者の外傷予防③						
第7週	競技者の外傷予防のための実技① P39～						
第8週	競技者の外傷予防のための実技②						
第9週	競技者の外傷予防のための実技③						
第10週	競技者の外傷予防のための実技④						
第11週	種目別の外傷予防とその実際① P97～						
第12週	種目別の外傷予防とその実際②						
第13週	種目別の外傷予防とその実際③						
第14週	種目別の外傷予防とその実際④						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日に振り返ること						

令和5年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	高齢者の外傷予防技術	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整骨院で15年、病院整形外科勤務4年	担当者	小川 勝	授業方法	実技	単位数	1
到達目標	競技者、高齢者特有の外傷に対し、治療・施術を行うだけでなく、予防対策ができるようになること。			評価方法			
授業概要	競技者、高齢者特有の外傷に対し、術者、患者モデルを設定し予防対策のロールプレイングを行う。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	競技者の外傷予防(医歯薬出版)	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	高齢者の外傷予防① P125～						
第2週	高齢者の外傷予防②						
第3週	高齢者の外傷予防③						
第4週	高齢者の外傷予防④						
第5週	高齢者の外傷予防⑤						
第6週	高齢者の外傷予防⑥						
第7週	高齢者の外傷予防⑦						
第8週	高齢者の外傷予防⑧						
第9週	高齢者の外傷予防⑨						
第10週	高齢者の外傷予防⑩						
第11週	高齢者の外傷予防⑪						
第12週	高齢者の外傷予防⑫						
第13週	高齢者の外傷予防⑬						
第14週	高齢者の外傷予防⑭						
第15週	高齢者の外傷予防⑮ まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日に振り返ること						

令和5年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	保健科学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	片岡 絹子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1.臨床における柔道整復術の診断、処置について理解できる 2.解剖学・生理学・病理学の観点から身体の構造を理解できる 3.解剖学・生理学・病理学の観点から身体の構造について説明できる			評価方法			
授業概要	臨床現場での診断、処置について解剖学・生理学の観点から身体の構造を学習する。			期末試験 90% 小テスト 10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編・実技編)	使用器材	OHP、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(筋肉の構造について)						
第2週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(感覚器について)						
第3週	臨床における柔道整復術に関わる病理(疾病の分類について)						
第4週	臨床における柔道整復術に関わる病理(代謝障害について)						
第5週	臨床における柔道整復術に関わる病理(循環障害について)						
第6週	臨床における柔道整復術に関わる病理(炎症について)						
第7週	臨床における柔道整復術に関わる病理(免疫異常・アレルギーについて)						
第8週	臨床における柔道整復術に関わる病理(先天性異常について)						
第9週	臨床における柔道整復術に関わる病理(病因について)						
第10週	臨床における柔道整復術に関わる運動(身体活動と力学について)						
第11週	臨床における柔道整復術に関わる運動(運動器の構造と機能について)						
第12週	臨床における柔道整復術に関わる運動(神経の構造と機能について)						
第13週	臨床における柔道整復術に関わる運動(運動感覚について)						
第14週	臨床における柔道整復術に関わる運動(反射と随意運動について)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	前回学習した範囲の復習テストを行い、自宅学習させる						

令和5年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	柔道整復実技V	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整骨院を経営し施術業務従事中	担当者	山崎 和弘	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	技の名称と掛ける時のタイミング、そこにかかる力の負荷、患部外傷等を学んで欲しい。			評価方法			
授業概要	柔道を通して外傷、損傷(スポーツ損傷)を施術指導。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編・実技編)	使用器材	OHP				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	人体に加わる力 巴投の場合						
第2週	人体に加わる力 支釣込足の場合						
第3週	人体に加わる力 内股の場合						
第4週	人体に加わる力 打込の際の外傷、損傷						
第5週	人体に加わる力 乱取の際の外傷、損傷						
第6週	坐位時の負担と損傷						
第7週	立位と中腰にて腰部にかかる負担と損傷						
第8週	組み手時の負担と損傷						
第9週	受身の際の身体にかかる負担と損傷						
第10週	受身の際の手にかかる負担と損傷						
第11週	関節を取られた際の負担と損傷						
第12週	頭部の怪我の種類 ①重大事故の特徴						
第13週	頭部の怪我の種類 ②回転加速度損傷						
第14週	頭部の怪我の種類 ③脳震盪症状						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	自宅学習において、運動力学、力のつり合い、頭部外傷時対応反復学習を希望する。						

令和5年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	リハビリテーション医学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院・介護老人保健施設勤務歴11年	担当者	大田尾 浩	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 リハビリテーションの概念を説明できる。 2 各種疾患における障害の分類を理解できる。 3 各種疾患のリハビリテーションの内容を述べるこおtができる。			評価方法			
授業概要	リハビリテーション医学について、柔道整復との関連において、その概念を解剖、生理、運動学と関連させて学ぶ。リハビリテーションを必要とする代表的な疾患について概略を学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハビリテーション医学、配布資料	使用器材	PC プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション						
第2週	リハビリテーション治療技術_補装具 (P138~156)						
第3週	高齢者のリハビリテーション_フレイル/医療制度/認知症/パーキンソン病 (P157~167)						
第4週	高齢者のリハビリテーション_脳卒中 (P168~176)						
第5週	運動器のリハビリテーション_骨折の治療と後療法 (P177~189)						
第6週	運動器のリハビリテーション_骨粗鬆症 (P190~200)						
第7週	運動器のリハビリテーション_捻挫/上肢 (P201~216)						
第8週	運動器のリハビリテーション_下肢/上肢 (P217~224)						
第9週	運動器のリハビリテーション_頸肩腕/腰痛 (P217~237)						
第10週	運動器のリハビリテーション_頸肩腕/腰痛 (P238~244)						
第11週	リハビリテーションと福祉 (P245~248)						
第12週	障害者スポーツ (P251~257)						
第13週	リハビリテーション医学前期のまとめ						
第14週	リハビリテーション医学後期のまとめ						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 指定した教科書を受講前に読んでおくこと。 2 講義時に配布するプリントを用いて復習すること。						



## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	整形外科Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	医師(整形外科クリニック院長)	担当者	都築 克幸	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	① 整形外科的疾患についての理解を深める ② 身体部位の違いによる特徴や症状について理解する ③ 解剖と疾患の関連性について理解を深める			評価方法			
授業概要	臨床に必要な整形外科的知識を習得させる。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	整形外科学、標準整形外科学	使用器材					
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	上腕 肘 機能解剖 骨折 骨軟骨障害						
第2週	肘及び前腕部 靭帯損傷 前腕の骨折損傷						
第3週	手関節 機能解剖 骨折 関節疾患						
第4週	手 手指 機能解剖 骨折 変形 他						
第5週	骨盤 股関節 解剖 骨折 関節周囲損傷						
第6週	大腿骨 膝 ① 機能解剖 骨折						
第7週	大腿骨 膝 ② 靭帯損傷 他						
第8週	下腿 機能解剖 骨折 その他の損傷						
第9週	足関節 機能解剖 骨折 靭帯損傷 他						
第10週	足 足趾 骨折 変形 神経障害 他						
第11週	復習 ①						
第12週	復習 ①						
第13週	復習 ①						
第14週	まとめ						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	各疾患に重要な解剖知識を確認して授業に挑むこと 基礎知識と臨床所見がつながるように知識を整理すること						

令和5年度

## 授業計画書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	一般臨床医学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	医師(病院実務研修有り)	担当者	待鳥 浩信	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	「一般臨床医学Ⅰ」の学びを踏まえて、さらに疾患に関する知識を深め、以下の項目を到達目標とする。 ①診察の基本を実施できる。 ②内科疾患を中心とした疾患の概念を説明できる。			評価方法			
授業概要	内科学一般・内科診断学を通じて、内科的疾患とその診察法について学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	一般臨床内科・配布資料	使用器材	PC(PCプロジェクター)				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	消化器疾患①						
第2週	消化器疾患②						
第3週	消化器疾患③						
第4週	肝胆膵疾患①						
第5週	肝胆膵疾患②						
第6週	血液疾患①						
第7週	血液疾患②						
第8週	腎・尿路疾患①						
第9週	腎・尿路疾患②						
第10週	神経疾患①						
第11週	神経疾患②						
第12週	神経疾患③						
第13週	膠原病・アレルギー-疾患①						
第14週	膠原病・アレルギー-疾患②						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和5年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	外科学概論	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	医師	担当者	小山 進	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	外科学で扱う疾患、手術の概要と術前・術後の管理に関する基本的知識を習得する			評価方法			
授業概要	外科学概論では、柔道整復師に必要とされる臨床医学的基礎知識のうち、特に外科学一般の基礎となる総論的な知識の周知徹底を図る。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	外科学概論(柔整)	使用器材	講義用プリント、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	「ショック・心肺蘇生」バイタルサインの見方を基礎として急性期の患者管理を学ぶ						
第2週	「意識障害」意識障害を来たす疾患と急性期の処置に関して学ぶ						
第3週	「脳卒中」脳卒中の分類、病態、症状と急性期の治療に関して学ぶ						
第4週	「胸部外傷(1)」胸部の解剖と外傷による病態に関して学ぶ						
第5週	「胸部外傷(2)」胸部外傷による病態に対する急性期の処置に関して学ぶ						
第6週	「頭部外傷(1)」頭部の解剖と外傷による病態に関して学ぶ						
第7週	「頭部外傷(2)」頭部外傷による病態に対する急性期の処置に関して学ぶ						
第8週	「出血と止血」出血の病態と止血法に関して学ぶ						
第9週	「急性腹症」急性腹症を来たす疾患と急性期の処置に関して学ぶ						
第10週	「輸血と輸液」血液の生理、血液型の検査、輸血・輸液法に関して学ぶ						
第11週	「消毒と滅菌」滅菌法、消毒薬の分類とその使用に関して学ぶ						
第12週	「手術」術式や手術器具の種類とその使用法に関して学ぶ						
第13週	「麻酔」麻酔薬の種類と麻酔法に関して学ぶ						
第14週	「外科的感染症」外科領域で問題となる病原微生物とその病態に関して学ぶ						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	指定された教科書を通読し予習をし、その日の授業後に講義用プリントを読んで復習する。						

## 授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	臨床実習	授業時期	後期	授業時数	45
実務経験	整骨院で約15年の施術業務経験	担当者	小川 勝	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	柔道整復師としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識を習得し、患者との適切な対応を学ぶ。また、施術者としての責任と自覚を学ぶ。			評価方法  実習時評価25% レポート25% 実習課題(カルテ・デイリーノート・症例報告)50%  (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	臨床実習にて医の倫理、態度など柔道整復師としてのあり方や急性症状に対する施術の基礎を身につける。社会保障の仕組みを理解し、受領委任や償還払いの違いや柔道整復師法、健康保険取り扱いに関する関連規定を学ぶ。また、臨床現場で遭遇しやすい疾患の診断法及び施術法を習得する。						
教科書等	「柔道整復学 理論編」(南江堂) 「柔道整復学 実技編」(南江堂)	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
③第1週	①柔道整復師の業務 ②医療機関、接骨院の業務前準備 ③予診の取り方および実務補助 ④外傷のとらえ方 ⑤物理療法器械説明 ⑥物理療法体験および実務補助 ⑦運動療法体験および実務補助 ⑧運動療法の実際 ⑨接骨院業務の実際 ⑩接骨院終了業務、カルテ整理						
③第2週							
③第3週							
③第4週							
③第5週							
③第6週							
④第1週							
④第2週							
④第3週							
④第4週							
④第5週							
④第6週							
授業外学習指示等	基本的な知識や技術は、自分で繰り返し反復練習すること						

令和5年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	柔道整復実技Ⅷ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	小川 勝	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	柔道整復師として臨床現場で必要とされる、診察、整復、固定が行えるようになることと、他の疾患と鑑別を的確に判断できるようになること。			評価方法			
授業概要	術者、患者モデル、助手役を設定し問診、視診、触診及び徒手検査、整復法、固定法のロールプレイングを行う。			実技試験50%、期末試験50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学 実技編	使用器材	整復・固定・検査に必要な各種用具				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	26膝関節側副靭帯損傷の診察						
第2週	27膝関節十字靭帯損傷の診察						
第3週	28膝関節半月板損傷の診察						
第4週	29膝関節側副靭帯損傷の固定						
第5週	30下腿三頭筋肉離れの診察・31アキレス腱断裂の固定						
第6週	32足関節外側靭帯損傷の診察・33足関節外側靭帯損傷の固定・34下腿骨骨幹部骨折の固定						
第7週	35-B包帯法(包帯の種類)・35-C包帯法(包帯の巻き方)						
第8週	総合演習①						
第9週	総合演習②						
第10週	総合演習③						
第11週	総合演習④						
第12週	総合演習⑤						
第13週	総合演習⑥						
第14週	総合演習⑦						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日に振り返ること						

令和5年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	柔道整復学Ⅶ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	谷口 禎二	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	各損傷における発生機序・症状・合併症・治療法・後遺症などがいえる。			評価方法			
授業概要	「下肢の損傷」の冊子に添い練習問題を交えて確認する。			期末試験 100% 小テストにて加減 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	下肢の損傷の実力小テスト						
第2週	骨盤の骨折 大腿骨頸部骨折・p351～366						
第3週	股関節脱臼 股関節軟部組織損傷 p367～376						
第4週	大腿部の損傷 大腿骨骨折・軟部組織損傷p377～378						
第5週	膝関節部の損傷 大腿骨遠位部骨折・p378～392						
第6週	下腿骨近位部骨折・膝関節脱臼・膝蓋骨骨折・膝蓋骨脱臼p392～401						
第7週	膝関節部の軟部組織損傷p401～410						
第8週	下腿部の損傷 下腿骨幹部骨折・p411～420						
第9週	下腿部軟部組織損傷 足関節部の骨折p420～431						
第10週	足根部の骨折・軟部組織損傷p432～441						
第11週	足・足趾の損傷 骨折・脱臼・軟部組織損傷p442～456						
第12週	骨折総論・脱臼総論・軟部組織損傷総論の復習						
第13週	上肢の損傷の復習						
第14週	下肢の損傷の復習						
第15週	骨盤骨折～足趾部損傷まとめ・練習問題						
授業外 学習指示等	教科書の熟読						

## 授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	競技者の生理学的特徴・変化	授業時期	後期	授業時数	15
実務経験		担当者	脇田 真仁	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	・講義内容(高齢者の生理学的特徴・変化、競技者の生理学的特徴・変化)の理解。 ・講義毎の小テストをすべて解けるようにし、着実に国家試験に備える。			評価方法			
授業概要	人体の生理機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを理解し、柔道整復師として必要な生理学の基礎知識(高齢者の生理学的特徴・変化、競技者の生理学的特徴・変化)の修得を目指す。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	生理学	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第1章 高齢者の生理学的特徴・変化 A:細胞、組織の加齢現象 B:高齢者の生理的特徴(感覚系の変化まで) 血液の生理学 まとめ演習1						
第2週	第1章 高齢者の生理学的特徴・変化 B:高齢者の生理的特徴 血液の生理学 まとめ演習2						
第3週	第1章 高齢者の生理学的特徴・変化 C:運動と加齢 循環の生理学 まとめ演習1						
第4週	第2章 競技者の生理学的特徴・変化 A:運動と身体発達 1.小児期から青年期の発育特性 2.小児期から青年期の骨・筋肉系の発育と運動 循環の生理学 まとめ演習2						
第5週	第2章 競技者の生理学的特徴・変化 3.小児期から青年期の呼吸循環系の機能と運動 4.発育期の運動不足・過運動の影響 5.運動の習熟 循環の生理学 まとめ演習3						
第6週	第2章 競技者の生理学的特徴・変化 B:競技者の生理的特徴 呼吸の生理学 まとめ演習1						
第7週	呼吸の生理学 まとめ演習2, 3						
第8週	内分泌の生理学 まとめ演習1, 2						
授業外 学習指示等	授業を受ける前の予習として、教科書を熟読しておく。 毎回の講義で配布する小テストの問題はすべて解けるように復習する。						

令和5年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	高齢者の生理学的特徴・変化	授業時期	後期	授業時数	15
実務経験		担当者	脇田 真仁	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	生理学の中で特に重要でかつ、国家試験においても出題率が高い、血液、循環、内分泌、神経について重点的に復習し、国家試験に備える。今年度より新たに加えられた領域である、高齢者の生理学的特徴・変化、競技者の生理学的特徴・変化についても復習を行い、知識を定着させる。			評価方法			
授業概要	人体の生理機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを理解し、柔道整復師として必要な生理学の基礎知識(高齢者の生理学的特徴・変化、競技者の生理学的特徴・変化)の修得を目指す。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等		使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	内分泌の生理学 まとめ演習3 神経の基本的機能 まとめ演習1						
第2週	神経の基本的機能 まとめ演習2 神経系の機能 まとめ演習1						
第3週	神経系の機能 まとめ演習2, 3						
第4週	神経系の機能 まとめ演習4, 5						
第5週	骨の生理学 まとめ演習1, 2						
第6週	筋肉の機能 まとめ演習1, 2, 3						
第7週	第1章 高齢者の生理学的特徴・変化 まとめ						
第8週	第2章 競技者の生理学的特徴・変化 まとめ						
授業外 学習指示等	授業を受ける前の予習として、教科書を熟読しておく。 毎回の講義で配布する小テストの問題はすべて解けるように復習する。						